

効能効果

- (1) 頭痛・歯痛・抜歯後の疼痛・咽喉痛・耳痛・関節痛・
神経痛・腰痛・筋肉痛・肩こり痛・打撲痛・骨折痛・
ねんざ痛・月経痛(生理痛)・外傷痛の鎮痛
(2) 悪寒・発熱時の解熱

用法用量

大人(15才以上) 1回 1包 11才以上15才未満 1回 $\frac{2}{3}$ 包
8才以上11才未満 1回 $\frac{1}{2}$ 包 5才以上8才未満 1回 $\frac{1}{3}$ 包
3才以上5才未満 1回 $\frac{1}{4}$ 包

1日2回を限度とし、なるべく空腹時をさけて服用する。

服用間隔は6時間以上おくこと。

用法用量に関連する注意：小児に服用させる場合には、保護者の指導監督のもとに服用させてください。

注意 1. 次の人は服用しないでください。

- (1) 本剤によるアレルギー症状を起こしたことがある人。
- (2) 本剤又は他の解熱鎮痛薬、かぜ薬を服用して
ぜんそくを起こしたことがある人。
2. 服用に際しては、説明書をよく読んでください。
3. 直射日光の当たらない湿気の少ない涼しい所に
保管してください。
4. 小児の手のとどかない所に保管してください。
5. 本剤は使用期限内に服用してください。
なお、期限を過ぎたものは服用しないでください。
6. 他の容器に入れ替えないでください。(誤用の原因
になったり品質が変わります。)

成分分量(1.15 g×2包中)

アセトアミノフェン..... 600mg
エテンザミド..... 1000mg
カフェイン水和物..... 240mg
添加物：バレイシヨデンプン、軽質無水
ケイ酸、リン酸水素カルシウム

2包(1包1.15 g) (250) 製造番号

高市製薬株式会社

奈良県高市郡明日香村野口10
TEL 0744-54-2514

配置期限
使用期限

副作用被害救済制度 ☎ 0120-149-931





解熱鎮痛薬使用上の注意

してはいけないこと



[守らないと現在の症状が悪化したり、副作用・事故が起こりやすくなります]

1. 次の人は服用しないでください。

- (1) 本剤によるアレルギー症状を起こしたことがある人。
- (2) 本剤又は他の解熱鎮痛薬、かぜ薬を服用してぜんそくを起こしたことがある人。

2. 本剤を服用している間は、次のいずれの医薬品も服用しないでください。

他の解熱鎮痛薬、かぜ薬、鎮静薬

3. 服用時は飲酒しないでください。

4. 長期連用しないでください。

相談すること



1. 次の人は服用前に医師、歯科医師又は薬剤師に相談してください。

- (1) 医師又は歯科医師の治療を受けている人。
- (2) 妊婦又は妊娠していると思われる人。
- (3) 授乳中の人。
- (4) 水痘(水ぼうそう)若しくはインフルエンザにかかっている又はその疑いのある乳・幼・小児(15才未満)。
- (5) 高齢者。
- (6) 本人又は家族がアレルギー体質の人。
- (7) 薬によりアレルギー症状を起こしたことがある人。
- (8) 次の診断を受けた人。

心臓病、腎臓病、肝臓病、胃・十二指腸潰瘍

<裏面へ続く>

2. 次の場合は、直ちに服用を中止し、この説明書をもって
医師、歯科医師又は薬剤師に相談してください。

(1) 服用後、次の症状があらわれた場合

関 係 部 位	症 状
皮 膚	発疹・発赤、かゆみ
消 化 器	悪心・嘔吐、食欲不振
精 神 神 経 系	めまい

まれに下記の重篤な症状が起こることがあります。その
場合は直ちに医師の診療を受けてください。

症 状 の 名 称	症 状
ショック (アナフィラキシー)	服用後すぐにじんましん、浮腫、 胸苦しさ等とともに、顔色が青 白くなり、手足が冷たくなり、冷 や汗、息苦しさ等があらわれる。
皮膚粘膜眼症候群 (スティーブンス・ジョンソン症候群)、 中毒性表皮壊死症 (ライエル症候群)	高熱を伴って、発疹・発赤、火傷 様の水ぶくれ等の激しい症状 が、全身の皮ふ、口や目の粘膜 にあらわれる。
肝機能障害	全身のだるさ、黄疸(皮ふや白目 が黄色くなる)等があらわれる。
ぜんそく	

(2) 5～6回服用しても症状がよくなる場合

〈保管及び取扱い上の注意〉

(1) 直射日光の当たらない湿気の少ない涼しい所に保管し
てください。

(2) 小児の手のとどかない所に保管してください。

(3) 他の容器に入れ替えないでください。(誤用の原因にな
ったり品質が変わります。)